

クレシエンス島の闘争

Additional Stories ~ Episode II ~



DOJIN
R18
成人向け
18歳未満の
購入・閲覧禁止

■ルブラン=アドリアーナ

クレシェンス島 島主

ドS——。



■右大路 綾誇

(うだいじ あやか)

官設中央総合学府 2年

アドリアーナに囚われ
いっぱいエッチな目に...



■ まえがき ■

ご覧いただき誠に
ありがとうございます

本編との兼ね合いにより省略しておりますが
状況はあやかに
逃走及び抵抗防止の拘束帯が付けられております

「あなたがイク前に私をイかせられたら
外してあげる」

という提案に乗る形でアドリアーナとあやかの
セックス対決といったニュアンスの内容です

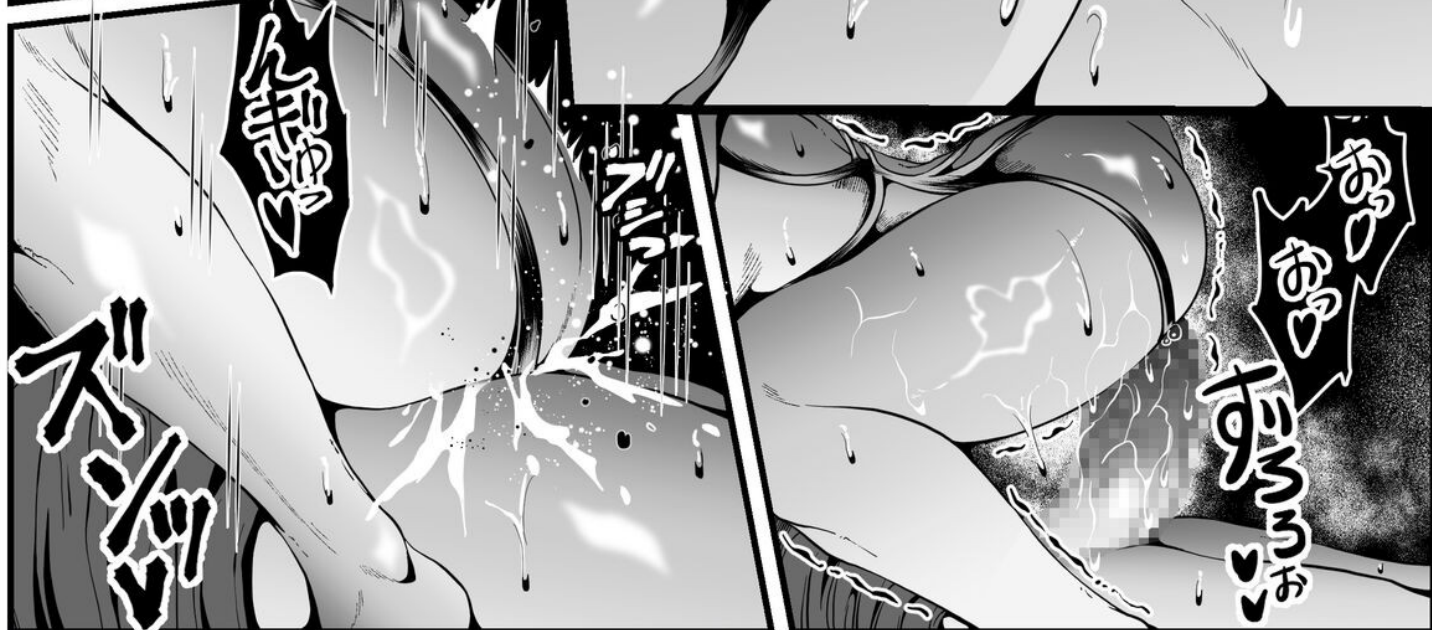
「攻める方が有利に決まってるじゃないっ！」と
ごねにごねた結果
あやかが主導権を握る形になっております

それでは、楽しんでいただければ幸いです











あゝもうっ♡
こんな気持ち良いの
我慢出来る
わけないじゃない♡

ぬるん



止まんないっ♡
勝手に動いちゃうっ♡

ふるん

だめっ♡
腰っツ!

ふるん♡



すふるん♡

どうせおまんこで
おちんぼしごかなきゃ
イかせられないんだからあ

ん♡
ん♡
ん♡

ん♡
ん♡
ん♡

ん♡
ん♡
ん♡



あはあっ♡
きゅもちゅ♡
いっ♡



仕方ないのよっ
ねっ♡

ふる♡









ええ…
私が先にいつちやつたんだから
仕方ないものね？

え？…あつ？…
あ…あの…ちよつ
…ちよつと…待って…

んん？



良いわ
外してあげる♡

きなごい…

えっ…？
アレ？…
えう？あ…
ホントに？



そう…じゃあ首輪は
このままで良いのね？

(なっ何でそんなに簡単に認めるのよっ！
これじゃ…私が…なんか…
ズルしてるみたいじゃない…)
…あつ…あの…ちよつ…
ちよつといつた…かも？

うえっ…
そ…それは

ふふ…♡
可愛い子ね♡

あつ♡
んっ♡んっ♡
んあ♡

じつじの…♡

あ…あの引き分けってことじゃ
だめ…かしら？

ぬる

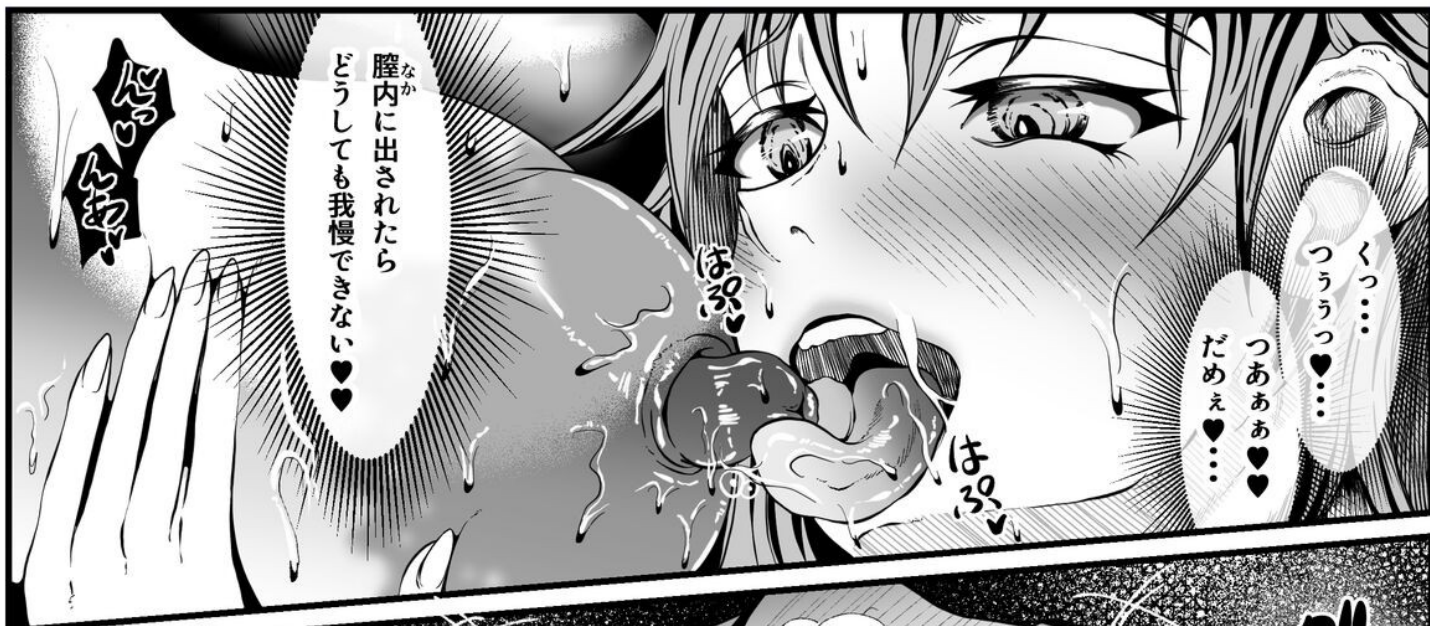
ふふ…♡いいわよ♡

同時って…じゃあ外してあげる♡♡
じゃあ続けまじょうか？

あ…う…うんっ♡









んひゅいっ!!



絶対負けられないっ



ちよっズルっ…
ズルじゃないっ?
んひゅいっ♡♡♡

ちくびいっ♡♡♡
いいイっ♡♡♡



ちよつと乳首弄ったくらいで
騒がないでよ...

別にこれくらい
エッチの範囲内でしょ? ♡

だろん♡

んい♡

んい♡

ぽろん♡



文句があるならっ
あなたもすれば? ♡

ふろん

んい♡

ぐしょ

ぐしょ
ぐしょ
ぐしょ
ぐしょ





話が
違うじゃないっ♡

ちよっ!...♡
動かないでよっ!!



フフ...♡

私からしても
良いんでしょう?♡



ズッ♡
ズッ♡
ズッ♡

ズッ♡

ズッ♡

ズッ♡

ズッ♡

フッ♡

フッ♡

フッ♡









ブチッ!?

唐突に首にまとわりついてた不快感が消える。

「えっ?あれっ?」

少し遅れて拘束具マディレットが外された事を理解した。

「ちょ…何でそんな簡単に…」

なつなに企んでるのよっ?」

この人がそんな簡単に負けを認める訳がない。

何だかんだ言いがかりをつけて

約束を破られた方がまだ納得できる。

「企むって… ……」

こんなモノがそんなに重要?」

さっきまで私を締め付けていた… ……」

今はただの紐みたいになつた拘束具マディレットを弄びながら

アドリアーナが問いかける。

なんか使用済みの下着を

いじられてるみたいで恥ずかしい… ……。

「当たり前でしょっ!」

そんなの付けられたままじゃ何されるかっ!」

減少率はそれほど高くないみたいだけど

そもそものこの人と私の力の差が在り過ぎる。

そのうえ2、3割も削られたら実質この人のやりたい放題だ。

「これねえ… ……」

愛菜あいなが付けさせろってうるさいから付けてただけよ…

私には最初からどうでもいいわ」

ほんとうにどうでもよさそうに吐き捨てるアドリアーナ。

なによっ!?その言い草っ!

外して貰おうって必死になつた私が馬鹿みたいじゃないっ!!

「もうっ!」

負けたのが悔しいからって今更そんな言い訳苦しいわよ?」

「負けて… ……なにが?」

事も無さげなアドリアーナ。

「つつ… ……見苦しいわねっ

言い訳しようが無い程の負けっぶりじゃない!?

いさぎよく認めなさいよっ!!」

会話が噛み合わない。

嫌な感じ… ……私だけが空回ってる感じ… ……。

「あなたが勝手に勝負だつて勘違いしただけでしょ？」

あなたがイク前に私をイかせられたら

拘束具を外してあげるって言ったのよ？」

子供に言い含めるようなアドリアーナの口調が

あやかをイラ立たせる。

「だっ……だから私の勝ちじゃない。

悔しいからってグダグダ言い訳して

負けを認めない方がよっぽどみつともないわよ？」

感情的になるあやかとは対照的に

アドリアーナは落ち着いている。

「だからって……

ほんと理解が遅いわね……。

初めから勝敗を決める様な事じゃないって言ってるのよ？

そもそもあなたが負けた場合のペナルティが無い時点で

勝負として成立してないじゃない」

くっ……やつぱり……この人と口論してるや

なんかいつも私が悪いみたいになつてくる……。

「そ……それは……私が負けたら首輪が……

ずっと付けっぱなしに……なるんだから……。」

弱々しい声色があやかの苦しい心情を語っている。

「勝負の結果が現状維持なら

私にメリットが無いじゃない？」

「うっぐ……」

アドリアーナのとどめの一言にあやかは押し黙る。

だめだあ……。

何を言っても言い返されちゃう……。

客観的に聞くとこの人の方が

正しいんじゃないかって思えてくるし……。

二の句が継げないあやかにアドリアーナが続ける。

「こんなものお願いされれば、すぐ外してあげたわ。

まあ……ただで外すのもなんだから

ちよつとご奉仕でもさせようと思っただけよお……♥♥」

ぜええ……たいっ嘘っ!!!

すっごい我慢してたじゃない。

それなのに先ににイカされちゃって悔しくて

恥かしくたまらないんですよ!!!

……

……

でも・・・

そんなこと絶対認めないわよね。

なんか口喧嘩で勝てる気しないし・・・

気持ちを切り替えよう・・・・・・。

そもそもこの人に負けを認めさせることが

目的じゃないんだから、今は解放された事実だけ

受けとめればいいのよ。

「それにしても・・・あなた・・・・・・。

それだけ脅威に感じてるコレ外すチャンスを

逃してもまだ続けたかったの?」

無理矢理自分を納得させようとしている

あやかに底意地の悪そうなアドリアーナの声――。

もともと火照っていた身体がさらに熱を帯びる。

「はっ!はあっ?何がっ!何がよおっ!」

最悪っ!?

コッチが折れたみたいになってるんだから

もういいじゃない。

何で次はあなたのターンみたいになるのよっ!?

何をからかわれるか察し焦るあやかに

アドリアーナは続ける。

「なんか・・・まだ続けても良いみたいな事

言ってたでしょ?」

思わず口走ってしまった些細な言葉尻を

いちいち蒸し返さないでよっ!?

ほんとっ性格悪い。

「つつっ・・・ッッ」

どこかでアドリアーナが負けを認めないことを

望んでいた自分が居た。

それ自体少し冷静になった今はすぐ恥ずかしいのに・・・。。

なによりそれを簡単に見透かされたことに

身体が震えるほどの羞恥を感じる。

「小さ・・・♥

私はいっぱい射精して満足したわあ♥♥

あなたは・・・・・・大変ねえ?♥

イク気満々だったおまんこ

寸前でオチンチン抜かれちゃって」

「べっ…べっにつっ」

絶対に知られたくいいことを指摘され声が上ずる。

身体が…あそこが…うるさ煩い。

いく直前でお預けにされた身体が

貪欲にアドリアーナを求める…。

いますぐペニスをおまんこにぶち込んで欲しい♥

もうギリギリなんだから

入れられただけで、きつとすぐにいつちゃうっ♥♥♥

イってるおまんこに、我慢なんてしないで

思いつ切り中出して欲しいっ♥♥

遠慮しないで子宮を

押し潰すくらいガンガン犯して欲しい♥♥♥

ザーメン混じりの愛液が太ももを

つたう感覚に慌てて足を閉じる。

(だめっ!?!いちいち反応しないでっ!)

確信なんてないんだからっ

かまをかけられてるだけなんだから)

「あゝ♥♥♥気持ち良かった♥♥♥

わたし…もう休むわあ♥♥♥」

「つつう…」

もうこれで終わり…最後通告を受け

下腹部に耐え難い熱を感じる…。

少しでも気を抜くと

アドリアーナにすがりついて思いつ切り

犯して欲しいと懇願しそうになる。

ほんと…うつとおしい。

私の身体なんだから

私の思い通りに動きなさいよっ!?

「ふふ…♥あなたは…

オチンチンで散タイキまつくたのに

これからまだオナニーしちゃうのかしら?」

からかうようにいやらしく嗤うアドリアーナに

あやかは短く吐き捨てるのが精一杯だった。

「だっ 誰がっ!!」

誰が…そんな…こつ…。

いいからっ、早く…早く出てっ!?

じゃないと…わたし。

「それじゃあ…おやすみなさい…♥

おやすみ…♥♥」

ひらひらと手をふり…

悠然と満足そうに部屋を後にする

ルブラン＝アドリアーナ。

その後ろ姿を悔しそうに見送るあやかは

懸命に身体のうちきと戦っていた。

…

…

…

………

(… まったく… なんて娘)

散々射精し物理的にも精神的にも満足した。

口にした言葉に嘘はない………。

にもかかわらずアドリアーナのペニスは

へそに付きそうな程そり立ち

淫臭を放ちながら物欲しそうにビクついていた。

あのままあそこに居たら

間違いなくあやかを犯していた。

(ふふ…♥懸命に平静を装ってたけど…♥♥)

部屋に充滿する程の濃厚メスの臭い………。

全身でアドリアーナを求めるあやかの姿を思い起こし

アドリアーナのペニスは更に硬さを増す。

(まあ…続けてあげても良かったんだけど………

でも…それは違うわよね)

自身にまたがり懸命に

腰を振るあやかの姿が思い起こされる。

(必死に考えて私を先にイかせたんだから

そこは尊重してあげないとね)

耐え難い程の淫欲に苛さいまれても尚

それを抑え込む強靱な心……。

「ふふ…♥壊し甲斐がありそうね♥♥♥♥」

continued next episode○○○

でもオナニーは
した...

んひっ♡♡!!

いつ!!
イッくッ♡

イクっ♡!!
イっくっ♡♡♡♡♡

